飛鳥びと

古きもの・明日のもの

2024年 春から夏へ No.18

飛鳥の原風景に魅せられて

留学体験での気付き　帰国子女の挑戦！

島田 龍之介（しまだ りゅうのすけ）(22)
令和5年10月から明日香村 地域おこし協力隊として活動中

Q 小さい頃はどんなお子さんでしたか？

A 橿原市の出身で、地元の小・中学校に通っていました。小学生の頃からずっとサッカー一筋で、色んなクラブチームに所属しました。そうですね、サッカー漬けの毎日だったと思います。チームもどこが自分に合っているか、どういう人とプレーするのがベストなのかを自分で調べて所属チームを決めていました。移籍についても全て自分の判断で決めたので、両親には随分迷惑をかけたなぁと今となっては感じています。

Q 高校卒業後トルコに留学されたんですよね。トルコもサッカーが盛んだと聞いていますが、これもサッカーがきっかけですか？

A 実は、両親がトルコから衣料品を輸入してネットで販売している仕事をしているため、将来家業を継ぐ事も視野にトルコ語を学びたいと思ったのがきっかけです。両親はトルコ語が話せなかったので…。それに、当時大学で特にやりたいこともなかったので、高校卒業後、現地の語学学校に単身で入学しました。異文化に触れるのも少しでも若いうちの方が自身の成長につながると思いましたので。

Q 高校卒業してすぐ海外に出るなんて凄いですね。不安などはなかったですか？

A トルコは父親の出張に同行して出かけた事がありましたので知らない国でもありませんでした。不安はありませんでした。トルコで生活しているイメージは描けていましたので。

日本人の心のふるさと　～その保存と未来のために～　令和５年度財団活動の記録

帝塚山大学連携イベント「飛鳥の考古と民俗」

9月23日に帝塚山大学との連携で、やさしい歴史教室「飛鳥の考古と民俗」を実施。

1時限目：清水昭博先生「推古朝の寺院」の講義。

推古朝から次々と建てられた飛鳥の寺院についてご解説頂きました。

2時限目：西蓮寺匠先生「明日香の民俗」の講義。

明日香村に伝わる生活関連の伝承や行事のお話を中心にご解説頂きました。

また、午後からはご講義頂いた場所を中心に明日香村内を両先生のご案内で散策しました。

「弥勒石（みろくいし）」▶
飛鳥寺の南西
飛鳥川沿いに位置する。

▼飛鳥寺研修会館での講義

奈良大学連携イベント「平城宮跡周辺を歩く」

10月15日には奈良大学との連携で「平城宮跡周辺を歩く」を実施しました。40名のご参加を得て、ウォーク案内、講座解説は同大学相原嘉之先生。午前中から大極殿を始めとする宮跡内ウォークを実施し、最後は「いざない館」で講座を行いました。充実した一日で、参加された皆様も大変満足されたご様子でした。

◀大極門（南門）

▲東院庭園

◀「いざない館」での講座

第１回「飛鳥・藤原まるごと博物館」検定実施

令和６年２月10日、第１回「飛鳥・藤原まるごと博物館」検定を飛鳥、奈良の二会場で実施。この検定は「飛鳥・藤原」の世界遺産登録を応援し、ファンの裾野を広げるため、今年度より始めたもので、当日は両会場合わせて300名の方が「初級編」にチャレンジされました。次回の検定は「中級編」を加えて令和６年度冬に実施予定です。

多くの受検ありがとうございました。次回のチャレンジ、お待ちしております。

飛鳥からの便り

私事でありますが「飛鳥びと」17号秋冬号をもって編集から卒業させていただきました。

８年間、本紙に携わって頂いた方々に心より感謝申し上げます。

今後は読み手として新しくなった「飛鳥びと」を愛読させていただきます。

本当にありがとうございました。

新子　信子

新子さん、これまで取材・編集ありがとうございました。

これからも多くの方に親しんでもらえる紙面づくりを目指しますので、皆様引き続きご愛読の程よろしくお願い致します。

事務局

無住社寺等の修復や文化活動の助成

昨年11月７日に明日香村上居にある上宮寺の修復助成と文化協会や商工会、伝承芸能保存会への文化向上に関する助成の目録授与式を行いました。

明日香村の歴史的風土、景観を維持するため、財団では、無住社寺等に対して、住民負担修復費の一部を助成しています。

また、伝承芸能の保存や後継者の育成、地域住民の文化向上などにも助成しています。

**** 個人特別会員募集のご案内 ****

飛鳥地方に残る貴重な歴史的文化遺産の保存とその活用を目指し様々な事業を行うとともに、後世に引き継ぐことを使命に活動しております。その保存と未来への継承のため皆様のご支援とご協力をお願い致します。詳しくは財団ホームページをご確認ください。

発行・お問合せ　公益財団法人古都飛鳥保存財団
〒634-0138　奈良県高市郡明日香村大字越13-1
TEL：0744-54-3338　FAX：0744-54-3638　E-mail：info@asukabito.or.jp
HP：https://www.asukabito.or.jp　インスタグラム：koto_asuka
KOTO_ASUKA

Q イメージが描けていたなんてカッコいいですね。留学されていた時の現地での生活はどうでしたか？

A 最初の2ヶ月は現地の日本人のところにホームステイし、その後一人暮らしをしました。基本、学校へ通いながら家事全般もこなしていましたよ。ただ、食事は You Tube などを見ながら見様見真似で作っていましたが、余り美味しく出来ませんでした（笑）。

2年間で7段階のプログラムが有るのですが、最初の2段階目までは英語でトルコ語を説明するものでした。英語は得意ではなかったので大変でしたが、翻訳機をフル稼働してなんとか授業についていってました。3段階目になるとトルコ語のみの授業となりましたが、トルコ語漬けの毎日だったので、徐々に理解できるようになりました。今でも、当時の留学生仲間とは電話で話をしますし、街のお店のトルコ人スタッフとも問題なくトルコ語で会話出来ます。友達にも「さすが！やるなぁ」と褒められましたよ（笑）。

Q 2年間の語学留学を終えて帰国されるわけですが、なぜ明日香村に生活拠点を置こうと思われたのでしょうか？

A 1つ目は、2年間のトルコ留学を終えて日本に帰って来た時、明日香村にある日本文化の原風景というか、この景観に惹かれるものがあったからです。あと、「地域おこし協力隊」は村在住が条件になっていたことかな。

地域の方と力を合わせて 獣害対策に取り組む

Q 明日香村での「地域おこし協力隊」としての活動はどのようなものですか？

A 主な活動は獣害対策です。近年は猪による農作物被害が大変増えているので、村内を巡回して状況を把握するとともに、獣害防護柵の破損があればその修復などを村の総代さんなどと話し合いながら進めています。時には猟友会の方々にも同行し捕獲等の補助もやっています。すべてが初めての経験で、学びながら活動している毎日です。「地域振興公社」にも協力して頂いて、農家の皆さんの思いも伺いながら獣害対策を進めています。

他には、イベントの開催も企画しています。近隣のサッカーチームなどにお声掛けして、入谷周辺地区の点検を兼ねて竹の伐採を行い、その竹を活用した竹灯篭で食卓の周りを囲みピザパーティー！といった感じです。協力してくれた人達にも「やって良かった」「楽しかった」と思ってもらえるようにしたかったので。

ボランティアやイベント開催は、win&win の関係性がこれから先、長く続けていく上で大事なのではと思っています。

「一度で何かが変わる訳ではない でも、知るきっかけになれば」

Q 獣害は村だけでなく日本全国で問題になっているので、大変だと思いますが、がんばってください。でも、イベント開催等も手掛けられて、村内にワクワクする活気が生まれると楽しいですね。

A 一度のイベントですぐに何かが変わるわけではないと思いますが、明日香村を知ってもらうきっかけになればと思います。出来れば子供達を巻き込んで、奥飛鳥、入谷など明日香村にある日本文化の原風景に触れてもらいたいと思います。今すぐに魅力を感じてもらえるのかどうか分かりませんが、将来的にでも村への関心につながれば、やる意義はあると思います。

Q オフの日は何をされているのでしょうか？

A サッカーを今も続けています。火曜日と木曜日が活動日で、練習だけでなく日曜日は試合にも参加しています。あとは、サッカーのトレーニング繋がりで筋トレもやっています。ちなみに家にはベンチプレスもあるんですよ（笑）。それ以外は同年代の友人とのお寺や自然遺産巡りなども好きですね。周辺の古民家カフェなどのおすすめ店などを探すのも楽しみです。

Q 最後にご自身はこれからの〝飛鳥〟にどのように関わっていこうと考えておられるのでしょうか？ご自身の夢がありましたらその辺もお聞かせ頂ければと思います。

A 特に明日香村ということになりますが、原風景が色濃く残っているこの素晴らしい文化的な景観や風景を、次世代の子供達に受け継いでいくことはもちろんのことですが、単に残せば良いというだけではなく、これらを地域の活性化に繋げていければと思います。何ができるのかは今、手探りしている状況ですけど。しっかりと勉強しながら、またサッカーを続けていたおかげでつながった人たちとの絆を大切に活かしながら実現していきたいです。

協力隊の任期は3年間ですが、まずは現在の仕事である獣害対策などに取り組む事が大切だと思っています。今でも結構自由度の高い仕事をさせて頂いているので感謝しているんです。そして将来は、勉強や経験を積んで村の職員になりたいという希望もあります。

いずれにせよ、この地域に貢献できて自分にあう仕事に就きたいと思います。

～インタビューを終えて～

私の慣れない取材にも実直に答えてくれるさわやかな印象の好青年。物腰の柔らかさの中に自分というものをしっかりと持ち、飛鳥をこれから支えていってくれる力強さも感じさせてくれました。そしてなにより、端々にサッカーへの愛が溢れ、やっぱり今でもサッカー少年なんだなと思いました。いろんなお話しがうかがえて、あっという間に時間が過ぎた取材でした。

そしてなんと、明日香村職員に内定が決まったとの事！ 想いを形にしていく青年をこれからもますます応援したくなりました。

事務局・y

飛鳥・藤原の茅（地・知）の輪づくり

―飛鳥・藤原の名人紹介―

飛鳥坐神社では、六月晦日と十二月大晦日に「茅の輪」くぐり儀礼が行われます。「茅の輪」くぐりは京都八坂神社など伝統ある神社の年中行事となっています。儀礼では紙の人形が使われます。人形に穢れを移して川に流し、穢れ祓いを祈願します。「蘇民将来之子孫者也」札を使うこともあります。スサノオノミコトは貧乏な蘇民将来から厚遇を受けて、お礼に「茅の輪」を授けます。蘇民将来の子孫は腰につけた「茅の輪」のお陰でずっと疫病から逃れ、繁栄したという伝承が基になっています。飛鳥池遺跡や藤原京跡の発掘では、人形などの木札が溝など水に関わる遺構から発見されており、人形に穢れを移して祓う信仰は七世紀後半まで遡って始まっています。飛鳥・藤原の地には古来の儀礼・信仰が今なお生き続けているのです。飛鳥坐神社の「茅の輪」儀礼からは、飛鳥の地で生きた人々の思いが伝わってきて、飛鳥・藤原の歴史・文化の豊かさに感動すら憶えます。

「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」は、世界遺産登録に向けての準備が最終段階を迎えています。飛鳥・藤原の地は日本国と日本文化の始まりの地であり、遺産はその歴史・文化の豊かさを伝えています。地元の方々の「知の輪・地の輪」によって、その価値が今日まで良好に伝えられてきたことを痛感します。その豊かな価値を日本そして世界の人々に、これまで以上に知り、味わって頂く。それは「飛鳥・藤原」の価値をさらに高めます。「知の輪・地の輪」をさらに磨き上げることも必要となってくるでしょう。

考古学者　木下正史
（古都飛鳥保存財団評議員）

本年度、個人特別会員の小寺豊春様がご逝去され、豊春様の飛鳥への想い、ご遺志を受けられたご遺族様からご寄附を頂戴しました。小寺様の飛鳥への深いご関心とご厚情に感謝いたします。

財団では、飛鳥地方の歴史的風土を未来に引き継ぐ事業に取組んでおります。現在、『飛鳥・藤原』の世界遺産登録に向けた「普及啓発事業」を積極的に進めておりますが、長年ご寄附をいただいておりますが皆様に感謝申し上げますとともに、引き続きのご支援をよろしくお願い申し上げます。

また、「遺贈」によるご寄付も承っております。ご検討をいただける場合は、当財団までご相談を宜しくお願いいたします。

Panasonic
奈良交通
MIYAKO HOTELS & RESORTS
私たちは 古都飛鳥保存 財団の活動を 応援しています
近畿日本鉄道株式会社
奈良大学 NARA UNIVERSITY
法人特別会員
個人特別会員